

Q 3 : 「地域学校協働活動」に向けて、地域連携教員として具体的には、どのようなことに取り組みばよいか。

A : 「地域学校協働活動」は、「地域とともにある学校」づくりの核となる取組である。「地域とともに」の言葉通り、学校と地域が「連携・協働」する視点での活動が望まれる。その活動を設計しコーディネートするのが、まさしく地域連携教員の役割と言える。

以下、参考となる具体的な活動事例を紹介するが、「連携・協働」の視点からも、計画作成の段階から保護者や地域の方々に参画してもらうことが重要となる。「地域とともにある学校づくり～学校支援ボランティアハンドブック～（平成28年3月発行）」などを参考に実践願いたい。

また、地域連携推進計画・年間活動計画の作成については、「学校と地域を結ぶ地域連携教員のガイドブック [平成28年度版]」を参照されたい。

事例1 : 学校応援隊

自治会、PTA、おやじの会、子育て経験者、教員OBなど地域の各種団体や地域の企業などで「学校応援隊」を結成し、子どもを取り巻く様々な課題等に対応すると共に、地域全体で子どもを育むための拠点となる。

学校は地域の核となりうることから、地域連携教員が中心となり、管理職等と連携を図りながら、地域と共に応援隊を運営する。

学校応援隊の活動内容 (例)

- ・ 学校教育目標・学校課題・地域課題の共有
- ・ 学校課題解決のための具体策検討
- ・ 地域課題解決のための具体策検討
- ・ 具体策の実践
- ・ 実践の成果分析、評価



事例2 : 学校支援ボランティア (和楽器の学習支援)

音楽の授業の教員補助として、地域の方が琴に関する体験学習支援をする。

その際、担当教師は学習指導要領を踏まえながらも、指導の方法や授業の流れなどをボランティアと一緒に企画・立案し、地域連携教員が協働の視点でコーディネートする。

従来からある単なる「外部講師」ではなく、多くの場面で「参画」し企画立案から、共に授業を作り上げる取組をしている。



事例3 : 防災訓練

地域住民とともに防災訓練の企画・運営をする。地域連携教員がコーディネートしつつ、自治会長や自治消防団などが主体となって防災訓練を実施する。「全ての住民」を合い言葉に、「自助」「共助」の精神で避難訓練を実施する。地域の避難所となっている学校に避難した後、婦人会や保護者、中高生が主体となって、グラウンドでの炊き出しを行う。

防災訓練を通して、学校と地域が連携・協働し、「地域づくり」に寄与している。



事例4 : 校内推進体制の確立

地域と連携するには、まず教職員の十分な理解と協力が不可欠である。地域連携教員のリーダーシップと社会教育主事有資格者の見識を生かし、地域の社会教育行政職員を巻き込んで、「地域とともにある学校づくり」ワークショップを実施する。

参加者全員で意思統一し、研修終了後もアンケート内容などを共有し、チームとして地域連携に取り組んでいる。